

研修事例

人材育成

中小企業の次世代を担う 研究開発人材の育成

支援先

県内中小企業

【内 容】

本事業は県内中小企業の研究開発人材の育成を目的とし、平成28年度から「次世代技術活用人材育成研修」を実施しています。

企業の課題として人材育成を挙げる企業は多く、特に、「開発設計のリーダーを育てたい」「次世代技術を事業に活かせる人材を育てたい」という要望に対応するため、以下の3つの研修を実施しました。

表1 開発リーダー育成コースの内容

コース	実施内容
製品開発	マーケティング、製品開発
プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント実践、コミュニケーション

① 開発リーダー育成コース（表1）

期 間：（製品開発）令和7年8月6日、7日
（プロジェクトマネジメント）
令和7年9月1日、2日

修了者：（製品開発）5社7名
（プロジェクトマネジメント）
7社8名

内 容：研究開発に必要な基礎知識の修得

表2 技術修得コースの内容

コース	実施内容
デジタル技術	リバースエンジニアリング
IoT活用	センシング技術
分析評価	品質保証に向けた不具合解析
AI	画像検査AI
射出成形	射出成形機
産業用ロボット	安全特別教育（教示・検査）

② 技術修得コース（表2）

期 間：令和7年7月29日から
令和8年2月4日まで

修了者：42社52名（1月16日現在）

内 容：研究開発に役立つ技術手法の修得



図1 技術修得コース（IoT活用）の様子

表3 機器操作コースの内容

対象機器	三次元測定機、スガ摩耗試験機、 走査型電子顕微鏡、 RF イミューニティ機器、EMI 機器、 射出成形機、分光測色計、 X線回析装置、蛍光X線分析装置等
------	--

③ 機器操作コース（表3）

期 間：令和7年6月～令和8年2月
（各設備 半日程度）

修了者：11社25名（1月16日現在）

内 容：研究開発に向けた機器活用法
の修得

【研修の成果】

これらのコースに参加した受講生が研修で学んだことは、企業の新たな取組に活用されています。

例えば、技術修得コース（IoT活用）に参加した受講生は、社内の生産現場の自動化や省力化を目的としたIoTツールの製作を行っています。

また、機器操作コースの受講生は、客先からの緊急の測定要求に対して、当センターの機器を利用し、迅速に対応できるようになりました。

担当

技術支援部

IT・マテリアルグループ

青木 邦知、小松 優陽、

沖島 由幸、楯 尚史

TEL:029-293-7482